

お言葉どおり、この身に成りますように

今日ご一緒に読んだルカによる福音書は、神様がマリアに天使ガブリエルを遣わされる場面から始まります。マリアはまだ結婚していないおとめです。ただヨセフと結婚することを約束していただけです。天使ガブリエルはこのようなマリアに、子供を生むようになると言います。マリアは当惑しました。思いかけず天使に出会っただけでも驚くべきことなのに、まだ結婚していないおとめが子供を持つようになるとはどれほど驚いたことでしょうか。恐ろしくもありました。結婚する前に子供を持つようになれば、ヨセフとの結婚ができなくなってしまうでしょう。それに事態はさらに深刻さを増すかもしれません。もし姦淫した女という疑いをかけられれば、村の人々に石を投げられて死んでしまうかも知れません。たとえ生きることができたとしても、未婚の母として生きて行かなければなりません。それこそ苦しい人生に違いありません。

皆さんがマリアなら、このような状況でどうなさいますか。天使に出会ったと喜びますか。イエス様のような子供を生めるようになる喜びますか。嬉しいと言える方はほとんどいないでしょう。むしろ、マリアのように当惑される方が多いでしょう。ある方はこのように言いましたね。

「天使がそのように話しても拒みます。立派な子供が生まれると言っても願いません。むしろ平凡な人生が良いです。」

このような話に共感する方が多いかもしれません。

けれども辛いことに、マリアは選択して断ることができる状況にはなかったということです。天使が一方的に知らせてきたのです。ですからマリアはどれほど驚き戸惑ったことでしょうか。ところで、マリアと同じではありませんが、戸惑うことは私たちの人生にもよく起きています。私たちが選んだわけではないのに断ることができない、どうすることもできないことが起きたりするのは。そのどうすることもできないことは嬉しくて楽しいことより、大部分は苦しくて大変な事が多いでしょう。

私の友達の中にある人は、32年前障害児を持つことになりました。子供が生まれてから

いくらもたたないうちに全身が青くなり、呼吸することもままならなくなりました。病院での診断は、心臓病でした。子供がとても幼なすぎて、すぐ手術ができず、一年後に手術をしました。手術を待つ一年の間、その夫婦は毎日ほらはらしながら不安に暮していました。ところが子供が少し大きくなった後にも、戸惑う出来事が続いて起こりました。注意深く子供を見守ると、子供が手で物をまともに取ることができないのでした。病院で診察を受けたら、子供の親指の骨がありませんでした。そのまま何もせず放っておけば、生活に支障がでてしまうほどでした。何年か後、指の手術をしました。しかし指はそれぞれ4本ずつになりました。このような過程でその夫婦は多くの苦しみを経験しました。その夫婦は子供のことによってよく争いました。お互いに相手に何かの落ち度があったから子供に障害が生じてしまったと思っていたのです。それゆえ、二番目の子供を持つこともあきらめてしまいました。そして神様を恨みもしました。

ところが私たちにとって、このような状況であれこれ悩み苦しんでしまうのとは異なり、マリアは驚くべき姿を見せてくれています。このような苦しいことを喜んで受け入れると言うのです。もちろんマリアも初めには恐ろしさを感じました。ですから天使にこう聞いたのです。

「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知りませんのに。」
すると天使ガブリエルはこのように答えました。

「神にできないことは何一つない。」

マリアに起こることが神様のみ業だというのはです。するとマリアはこのように答えます。
「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」

私たちが今日、ともに注目したいことはまさにこの告白です。事実、マリアに起こることや私の友達に起こったことは誰もが避けたいことです。言葉で表現することができないほど、とても苦しいことであるからです。けれども人生は、誰の人生においても、避けようと思っても避けることができないことは起こるのです。世の中のすべてのことが私たちの意志通りになれば良いですが、いつもそうなるとは言えません。そして神様を恨んだりします。しかし、信仰者の人生はそういう苦しみと恨みの人生から一歩前に向かって進もうとすることです。信仰者は自分に近づくどうすることもできない運命が、神様の意志であれば、喜んで受け入れます。それは、神様はこの世界に特別な意志を伝える時、私たちを道具として用いられるからです。ですから信仰者たちは、自分を陶器であると告白するのです。陶器は、主人

が用いるままに任せるからです。

このようにこの世に生きる誰にも、避けようのない運命のような人生があります。けれども信仰者にとっては一般の人と違う重要なことがあります。それは「運命を通して召命を確認する」ということです。どうすることもできない自分の人生にも、神様にゆだねられた任務があるということを知ることです。そして積極的にその道に向かって生きていくことです。

ある方はこのように言いました。

「マリアはイエス様のように立派な息子を産むのだからこそ受け入れることができたでしょう。けれども私どもが受け入れなければならない苦しみの結果はみすぼらしいだけです。」

しかし神様の子なら覚えなければならないことがあります。それは、「誰の苦しみの結果もみすぼらしいことはない」ということです。信仰者にはみすぼらしい苦しみはありません。苦しみの向こうにはいつも恵みがあるからです。今日と一緒に読んだサムエル書にはこのように記されています。

「わたしは慈しみを取り去りはしない。」(サム下 7:15)

聖母マリアはイエス様が亡くなられた後、弟子たちのお母さんとしての役目をしたと言われます。そして伝説によれば、マリアはイエスの愛しておられた弟子ヨハネと一緒に遠くトルコのエフェソまで宣教のために行き、そこで死んだと言われます。マリアも自分の子供、イエス様の死を通してより真の信仰者になったのです。マリアは運命を召命として受け入れたのです。

この世の中の人々は、障害児を持った私の友達のような人生は、「不幸な人生である」と言うかもしれません。けれどもその夫婦は苦しい時間を通して、自分たちにも恵みがあるということを知るのでした。自分の子供に障害がなかったら感じるができなかったこと、考えることができなかったこと、多くを知ることができたのです。それは、自分の子供は特別な子供であり、その子供を授かり育てる自分の家族も特別な家族であるということです。それは運命であると同時に恵みでもありました。そしてその夫婦は、子供の成長に合わせて他の障害者のためのボランティアを始めるようになりました。彼らは、他の障害児を持った家族と心を分かち合いたいからだと言いました。そして、それを自分たちの召命であると言いました。彼らも運命を乗り越え召命を知ることになったのです。そして、彼らの人生はより豊かな恵みの人生になったと私は思います。

これから過ぎ去った一年を振り返り、締めくくりの時となりました。過ぎた一年の間、願

いもしないのに、身に迫ってきた苦しい出来事があったとしたら、それが神様の意志なのかよく考え尋ねてみましょう。そしてそれが神様の意志なら受け入れましょう。そして、それを通して神様が知らせてくださる召命に耳を傾けてみましょう。天使は私たちにもこのように言うでしょう。

「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」

この一週間、すべての恵みの源である神様の祝福が皆さんと皆さんの家庭に豊かに満ち溢れるように心よりお祈りいたします。